

## 原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：平成29年11月21日（火）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：大熊長官官房総務課長

### <本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから原子力規制庁の定例ブリーフィングを始めます。

○大熊総務課長 それでは、お手元の広報日程に基づきまして、私から補足説明をさせていただきます。

まず、1ページ目、1.原子力規制委員会でございます。（1）でございますが、第50回の原子力規制委員会が明日11月22日に予定をされております。議題は6件予定されております。

まず、議題の1「廃止措置実施方針の作成・公表等に係る関係法令の改正等について」でございます。こちらにつきましましては、本年春の法改正により設けられました廃止措置実施方針の作成・公表等の制度がございますが、この制度の施行に必要な関係法令の改正の案につきましまして、本年10月、先月から実施いたしました意見募集等の結果を踏まえまして、委員会での決定を求めるというものでございます。

続きまして、議題の2「試験研究用等原子炉施設及び使用施設等に係る廃止措置計画の認可基準について」。こちらは議題1の関係法令の改正案の検討作業を踏まえて、事務局から委員会に提案をするというものでございます。内容といたしましては、試験研究炉及び使用施設の廃止措置計画の認可基準等におきまして、実用炉あるいは加工施設等の基準と現状で異なる点がございます。そうした違いを踏まえまして、試験研究炉及び使用施設等の廃止措置計画の認可基準等において、所要の対応する規定を整備するということを検討することについて委員会にお諮りをするというものでございます。

続きまして、議題の3「審議会委員の任命のための要件等の改正について」でございます。こちらは本年9月の委員会におきまして、審議会の委員の任命を行うに当たっての要件等の見直しにつきましまして、考え方について御審議をいただいたところでございます。そこで議論された考え方に基づきまして、要件等の具体的な案を事務局で用意いたしましたので、これについて委員会にお諮りをするというものでございます。

続きまして、議題の4「原子力発電所の新規制基準適合性審査の状況について」。こちらは原子力発電所の新規制基準適合性審査の状況につきましまして、全体の状況を整理して委員会に報告をするというものでございます。

続きまして、議題の5「核燃料施設等の新規制基準適合性審査の状況について」。こち

らも同様に、核燃料施設等の審査の状況について、全体の状況を整理し、委員会に報告をするというものでございます。

最後に、議題の6「第5回日仏規制当局間会合等の結果概要について」でございます。こちらは今年14日、15日にフランスで開催されました日仏規制当局間会合の結果等について、その概要を出張者から委員会に報告をするというものでございます。

続きまして、2ページ目上段、11月24日金曜日、(2)の審査会合でございます。議題としては、原子力機構(JRR-3、HTTR)の審査を予定しております。これら試験研究炉の地震・津波関係についての取りまとめの審議を予定しているところでございます。

続きまして、下段に参りまして、11月27日月曜日、(5)の会議でございます。第8回もんじゅ廃止措置安全監視チームの開催を予定しております。議題の内容といたしましては、もんじゅの廃止措置に関しまして、まず、燃料の取り出しに関する準備状況、また、取り出しに関連する設備の点検の状況について説明を聞くということを予定しております。また、廃止段階におけます性能維持施設の抽出について、検討の状況及び結果について説明を聞くということを予定しているところでございます。

私からの御説明は以上です。

#### <質疑応答>

○司会 それでは、皆様からの質問をお受けします。いつものとおり、所属と名前をおっしゃってから質問の方をお願いいたします。

それでは、御質問のある方は手を挙げてください。シゲタさん。

○記者 NHK、シゲタです。

明日の委員会のことについて、2点お伺いしたいのですが、まず、議題2なのですが、先ほど実用炉は加工施設と異なる点があるという話があったと思うのですが、具体的にどういった点異なるのか、お伺いしてもよろしいですか。

○大熊総務課長 廃止措置計画の認可の基準ということで、今回の議題1に関連して全体を改めて検討しましたところ、実用炉あるいは加工施設におきましては、認可の基準として炉心からの燃料の取り出しなどを求めているということがございます。これに対して、現状、試験研究炉などでは求められていないと。そうした違いがあるところです。同様に、炉心からの燃料の取り出しということを求めることが適切ではないかという方向で委員会に御意見を伺うということを予定しております。

○記者 ありがとうございます。

もう一点、議題6なのですが、この6の日仏の件なのですが、特にフランスであったトラブルで、具体的なところがよく分からないので聞いてくるという話があったと記憶しているのですが、どこまで聞き取りができたのか、お話をお伺いしてもいいですか。

○大熊総務課長 出張者が帰ってきました明日報告ということで、恐縮ですが、ト

ラブルについて、どのような情報を得て、それをいつの段階でどのような形で報告するかについては、ちょっとまだ私も聞いておりません。明日の委員会での議論をお聞きいただければと思います。よろしく願いいたします。

○司会 ほか、御質問のある方。スミさん。

○記者 共同通信のスミです。よろしく願いします。

日本原電が先ほど地元に対して、東海第二原発の延長申請について、いたしますという御報告というか、されたそうですけれども、規制委員会の方には今日、明日とか、近々に来られると思うのですが、そのようなお話はあっているのでしょうか。

○大熊総務課長 今お話がございましたが、日本原電の社長でしょうか、が知事に本日面会されるという情報は私どもも報道などで聞いているところでございますけれども、延長の申請が具体的にいつ私どもの方に提出されるかについては、具体的な情報はまだ聞いておりません。

○記者 あと、来週月曜日ですか、27日に、もんじゅの廃炉について検討会が入っていたと思うのですが、廃止措置計画については、ここで出てくる段取りなのか。

○大熊総務課長 今お話があったのは、先ほど御説明しました27日の廃止措置安全監視チームのことだと思いますが、その議題は先ほど御説明したとおりです。廃止措置計画については、検討中ということで聞いておりまして、具体的にいつ提出ということは私どももまだ聞いておりません。

○記者 特に廃止措置計画が出てきそうだから27日にセットしたというわけではなくて、たまたまですか。

○大熊総務課長 それはございません。安全監視チームは定期的に、おおむね月1回程度ですが、議論をして、監視をしているということでして、そこはつながりはないということでございます。

○記者 最後に1点、神戸製鋼の問題ですけれども、調査を依頼されて、適宜ヒアリング等をされていると思うのですが、特に何か原発の使用前検査、定期検査、定期検査は今ないか、等々で進捗に影響が出ているようなケースはあるのでしょうか。

○大熊総務課長 神戸製鋼の不正の事案については、先日の委員会でも報告をしたとおり、そこで議論があったとおり、継続してその後、状況の確認、情報の収集をしているところであります。特に検査などで支障が出ているとか、そういった情報は聞いておりません。その情報の収集ということで申しますと、御質問を超えるかもしれませんが、その後、北海道電力からもこれまで報告があった関西電力等と同様の趣旨の報告を受けているところでございます。

○記者 済みません。せっかくなので確認で。同様の趣旨というのは、神戸製鋼製のものが安全上重要な機器あるいは部品に使われていたけれども、不正が確認された工場から

出荷されたものではないと、そういう理解でよろしいですか。

○大熊総務課長 おおむねそういうことですが、もう少し正確に申しますと、安全上重要なバウンダリにおいて神戸製鋼所の製品が使われていないかということ報告するように、関西電力、九州電力、それから、四国電力に求めて報告を得ていたということでございまして、それと同様に安全上重要なバウンダリでの製品の使用状況について報告を受けたということでもあります。それらについては主要な部材への使用はないと。溶接などでの使用はあるけれども、不正が確認されたものではなく、また、不正が確認された工場のものでもない、こういった報告でございます。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほかは御質問はございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、本日のブリーフィングは以上とさせていただきます。お疲れさまでした。

—了—